

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 5 月 11 日 (2006.5.11)

【公表番号】特表 2002-504565 (P2002-504565A)

【公表日】平成 14 年 2 月 12 日 (2002.2.12)

【出願番号】特願 2000-532445 (P2000-532445)

【国際特許分類】

C 0 8 F 4/646 (2006.01)

C 0 8 F 4/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 4/646

C 0 8 F 4/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 24 日 (2006.1.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

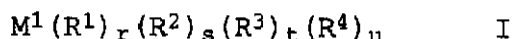
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の工程で、有機または無機担体材料を式 I

【化 1】



[但し、 M^1 が、アルカリ金属、アルカリ土類金属または周期表第 I I I 主族または第 I V 主族の金属を表し、

R^1 が、水素、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリール、アルキルアリールまたはアリールアルキル（但し、各々がアルキル基に 1 ~ 10 個の炭素原子を有し、アリール基に 6 から 20 個の炭素原子を有する）を表し、

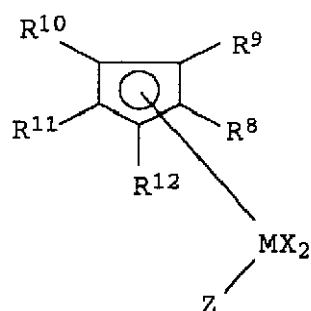
R^2 から R^4 が、各々、水素、ハロゲン、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリール、アルキルアリール、アリールアルキル、アルコキシ、アリールオキシまたはジアルキルアミノ（但し、各々がアルキル基に 1 ~ 10 個の炭素原子を有し、アリール基に 6 から 20 個の炭素原子を有する）を表し、

r が、1 から 4 の整数を表し、

s 、 t 、 u が各々 0 から 3 の整数をあらわし且つ合計 $r + s + t + u$ が、 M^1 の原子価に相当する。]

で表される金属化合物と、不活性溶媒中の存在下で反応させ、次の工程で、このようにして得られた懸濁液を、式 I I I :

【化 2】



III

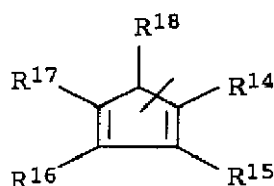
[但し、M が、チタニウム、ジルコニウム、ハフニウム、バナジウム、ニオブ、またはタンタルを表し、

X が、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素、水素または $C_1 \sim C_{10}$ アルキルを表し、

R^8 から R^{12} が各々、水素、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキルを置換基として有していてもよい 5 から 7 員のシクロアルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリールまたはアリールアルキルを表し、そして 2 個の隣接の基がともに 4 から 15 個の炭素原子を有する環を形成してもよく、または $Si(R^{13})_3$ を表し、

R^{13} が、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_3 \sim C_{10}$ シクロアルキルまたは $C_6 \sim C_{15}$ アリールを表し、Z は、X または

【化 3】



を表し、

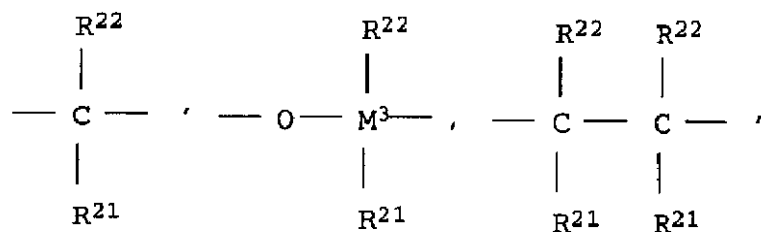
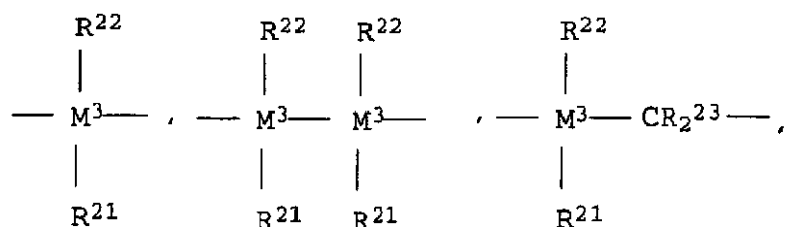
R^{14} から R^{18} が、各々、水素、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキルを置換基として有していてもよい 5 から 7 員のシクロアルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリールまたはアリールアルキルを表し、そして 2 個の隣接の基がともに 4 から 15 個の炭素原子を有する環を形成してもよく、または $Si(R^{19})_3$ を表し、

R^{19} が、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリールまたは $C_3 \sim C_{10}$ シクロアルキルを表し、

または R^{11} と Z が共に基 - R^{20} - A - を表し、

R^{20} が、

【化 4】



= BR²², = AlR²², -Ge-, -Sn-, -O-, -S-, = SO, = SO₂, = NR²², = CO, = PR²² 又は = P(O)R²²,

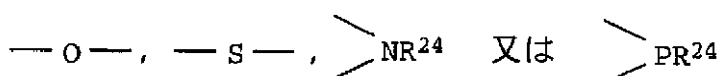
を表し、

R²¹、R²²およびR²³が、同一かまたは異なって、各々水素、ハロゲン、C₁~C₁₀アルキル、C₁~C₁₀フルオロアルキル、C₆~C₁₀フルオロアリール、C₆~C₁₀アリール、C₁~C₁₀アルコキシ、C₂~C₁₀アルケニル、C₇~C₄₀アリールアルキル、C₈~C₄₀アリールアルケニルもしくはC₇~C₄₀アルキルアリール、または2つの隣接の基と共にその原子と結合して環を形成してもよく、

M³が、ケイ素、ゲルマニウム、スズを表し、

Aが、

【化5】



を表し、

R²⁴が、C₁~C₁₀アルキル、C₆~C₁₅アリール、C₃~C₁₀シクロアルキル、アルキルアリールまたはSi(R²⁵)₃を表し、

R²⁵が、水素、C₁~C₁₀アルキル、C₆~C₁₅アリール（但しC₁~C₄アルキルまたはC₃~C₁₀シクロアルキルにより置換されていてもよい）を表し、または

R¹¹及びR¹⁷がともに基 - R²⁰ - を形成してもよい。]

で表されるメタロセン錯体と、

中性の強いルイス酸、ルイス酸カチオンを有するイオン化合物、ブレンステッド酸をカチオンとして有するイオン化合物からなる群から選択される配位錯体化合物と反応させ、

第1の工程の後で溶媒を除去せず、そして次の工程を、得られた前処理した担体材料を単離することなしに行なうことを特徴とする方法。

【請求項2】

無機の担体材料としてシリカゲルを使用する請求項1に記載の方法。

【請求項3】

式IのM¹がアルミニウムを表し、R¹からR³が各々C₁~C₁₀アルキルを表し、uが零を表す請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

メタロセン錯体としてジルコニウム錯体を使用する請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

使用するメタロセン錯体が、メタロセンジハライドの形のメタロセン化合物である請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載された方法。

【請求項 6】

芳香環上で置換されたアリールホウ素化合物を、配位錯体化合物として使用する請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載された方法。

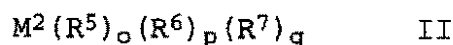
【請求項 7】

前処理した担体材料と、メタロセン錯体および配位錯体化合物との反応の後に、溶媒が除去される、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

使用するメタロセン錯体が、メタロセンジハライドの形のメタロセン化合物である場合、このメタロセン化合物および配位錯体化合物の反応の後に、以下の式 I I

【化 6】



[但し、 M^2 がアルカリ金属、アルカリ土類金属、亜鉛または周期表第 3 主族の金属を表し、

R^5 が、水素、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリール、アルキルアリールまたはアリールアルキル（但し、各々がアルキル基に 1 ～ 10 個の炭素原子を有し、アリール基に 6 から 20 個の炭素原子を有する）を表し、

R^6 から R^7 が、各々、水素、ハロゲン、 $C_1 \sim C_{10}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{15}$ アリール、アルキルアリール、アリールアルキル、アリールオキシまたはアルコキシ、（但し、各々がアルキル基に 1 ～ 10 個の炭素原子を有し、アリール基に 6 から 20 個の炭素原子を有する）を表し、

o が、1 から 3 の整数を表し、そして

p および q が整数 0 から 2 を表し、且つ合計 $o + p + q$ が M^2 の原子価に相当する。]

で表される金属化合物との反応が続く、請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 9】

式 I I の金属化合物として、アルキルアルミニウムを使用する、請求項 8 記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

特に使用したメタロセン錯体がメタロセンジハライドの形のメタロセン化合物である場合、式 I I の金属化合物との反応が、このメタロセン化合物およびメタロセニウムイオンを形成する化合物との反応の次の工程として続く。